科目ナンバリング					
授業科目名<英訳>	東洋史Ⅰ Oriental History I		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	辻　正博
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月2/月3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

「大分裂時代の中国社会―魏晋南北朝史」
　四百年続いた漢帝国が滅亡すると、中国では四百年近くのあいだ大分裂時代が続く。複数の皇帝が並び立つ情況は、王権や社会にとってどのようなものであったのか。また、日本を含む周辺諸国はこの情況に対していかなる対応を取ったのか。こうした問題について、政治史にとどまることなく、社会・文化や国際環境など可能な限り視野を広く取って解説してゆきたい。

[到達目標]

　日本列島に誕生した王権がコンタクトを取り始めた時期の中国について、政治・社会・国際環境を中心に理解を深める。中国の諸王朝と周辺諸国との関係を相対的に捉える。

[授業計画と内容]

　第１週目を「ガイダンス」にあて、講義内容の概略について説明を行う。
　第２週目以降は、以下のテーマについて１～２週を充てて授業を行う。

１．漢帝国滅亡の衝撃
２．江南の「開発」が意味するもの
３．「貴族制社会」とは何か―「九品官人法」の歴史的意義
４．「五胡十六国」時代のもつ意味
５．南朝の社会と政治―「軍人皇帝」時代
６．北魏（拓跋）政権のジレンマ―鮮卑皇帝と漢族社会
７．北斉・北周と突厥
８．仏教繚乱―梁の武帝とその時代
９．朝鮮半島の諸国家と南北朝―外交関係をめぐって
10．オアシス国家の外交―麹氏高昌国
そして、期末試験（およびフィードバック）

[履修要件]

本講義は、同一内容のものを週２回開講するので、いずれか１つのみを履修登録すること。

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記試験。80%）および平常点（20%）による。

[教科書]

冨谷至・森田憲司編『概説中国史（上）　古代―中世』（昭和堂）ISBN:9784812215166
必要に応じて、プリントを配布する。

東洋史Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

東洋史Ⅰ(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

高等学校の「世界史Ｂ」の該当箇所について、一通り復習しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

文系・理系を問わず、向学心に溢れた皆さんの聴講を歓迎します。